

# 情報化時代に考えたい漢字の話



日本人にとって、まるで空気のように当たり前に存在している漢字は、日本語を用いる上で欠くことができません。しかし PC やスマホの普及は人々の言語生活、とりわけ漢字使用の在り方を大きく変えました。情報化の進展に伴い、漢字は社会をどう映し出し、社会の変化は漢字の用い方をどう変えてきているのでしょうか。2010年、実に29年ぶりに改訂された常用漢字表や、2月末に文化審議会国語分科会で取りまとめられたばかりである常用漢字についての字体・字形に関する新たな指針の内容にも触れながら、文化庁で国語施策に携わる立場ならではの漢字にまつわる、他では聞けない話を伺います。

## 講師

武田 康宏（文化庁文化部国語課 国語調査官）

1966年、東京生まれ。文化審議会国語分科会における2010年の「常用漢字表」改定、2014年の「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）の取りまとめ等に携わる。現在は、2月末に報告された「常用漢字表の字体・字形に関する指針」（仮称）の審議を主に担当。「国語に関する世論調査」や文化庁広報誌「ぶんかる」に連載中の「言葉のQ&A」の執筆等に従事。

## 開催概要

- 日時：2016年3月30日（水）19:00～20:45（18:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：500円
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて
  - ① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。
- 協力：文化庁